

第 8 回ソーシャルファーム ジャパンサミット in ふくしま

特定非営利活動法人 コミュニティシンクタンクあうるず
〒080-0802 北海道帯広市東 2 条南 4 丁目 10 番地

助成事業の概要

本サミットでは、日本で様々な理由によって就労が困難な状況におかれている社会的弱者に働く場を提供するために行うビジネス（ソーシャルファーム）を地域や企業、市民の連携のもと支援していくために、「補助金に頼らず自立して経済をまわすには何が重要で何が課題なのか」をテーマに議論をすすめ、先進事例などを共有するとともに、事業所同士が連携をしていく機会とします。

第 8 回目となる今回は、ソーシャルファームと農福連携をテーマにした基調講演及び対談と、東日本大震災から 10 年を経た東北のソーシャルファーム活動に焦点を当て、東北地域 5 団体より事例を発表していただきました。

■開催日時：

2022 年 2 月 12 日 (土) 13:00 ~ 17:00

■開催方法：ZOOM によるオンライン開催

■開催内容：

1. 基調講演&対談

テーマ：「ソーシャルファームと農福連携」

講師：ソーシャルファームジャパン

理事長 炭谷 茂 氏

講師：日本農福連携協会

会長理事 皆川 芳嗣 氏

対談テーマ：「ソーシャルファームの未来」

司会：NPO コミュニティシンクタンクあうるず 菊池 貞雄 氏

Zoom ホスト：社会福祉法人共生シンフォニー (がんばカンパニー) 中崎 ひとみ氏

2. 事連発表

テーマ：「震災後 10 年を経た東北のソーシャルファーム」

(1) 社会福祉法人こころん 理事 熊田 芳江 氏

こころんファーム農場長 関根 考迪 氏
(福島県泉崎村)

(2) 特定非営利法人ハックの家 竹下 敦子 氏
(岩手県田野畑村)

(3) NPO まきばフリースクール 理事長 武田 和浩 氏
(宮城県栗原市)

(4) 一般社団法人イシノマキ・ファーム 代表理事 高橋 由佳 氏
(宮城県石巻市)

(5) NPO 法人あさがお 理事長 西 みよ子 氏
(福島県南相馬市)

3. 進捗状況報告

テーマ：「東京都ソーシャルファーム推進条例について」

公益財団法人 東京しごと財団 雇用環境整備課長(ソーシャルファーム支援センター長) 篠田 高志 氏

事業の成果

今回の Zoom 開催は、共生シンフォニーの中崎様にホストをお願いし、登壇者は、東京、帯広、東北（福島、岩手、宮城）の各県から、参加者は全国から 170 名となりました。

1. 基調講演では、まず炭谷氏から、「これから

の「ソーシャルファーム」と題してお話していただきました。

コロナによる健康や経済への影響が、特に社会的弱者に大きくなっており、すべての人を幸せにする社会を目指すため、経済や社会構造の改革が必要であり、ソーシャルインクルージョンの理念の具体化が必要である。また、ソーシャルファームが実現する諸外国の状況から、これからの日本のソーシャルファームに必要なものはなにかをお聞きした。

皆川氏からは、「ノウフクと新しい経済社会」と題して、農福連携について障がい者との農業のかかわりがどのように始まって、推進されてきたか、これからの課題、目指す方向についてお話しいただいた。障がい者等の農業分野での活躍を通して、自信や生きがいを創出し社会参加を促す取り組みとして重要であると感じた。

ひきつづき、NPO あうるず菊池氏の司会で講師のお二人の対談が行われ、活動内容に踏み込んでお話ししていく中で、課題や方向性を確認することができた。

2. 事連発表

テーマ：「震災後 10 年を経た東北のソーシャルファーム」

今回の事務局を担当した、社会福祉法人こころんの熊田氏のコーディネーターにより、東北地区の 5 団体より活動報告をしていただいた。

震災後 10 年を経た現在でも傷跡が生々しく残る地域で、無農薬農産物の栽培と販売やカフェ、パンの製造、染め物、手織り、フリースクール、重度精神障がい者の支援など様々な活動の報告があり、震災前と震災後で大きく変わってしまった環境の中で、何とか活動を継続し、すべての人が幸せに暮らせる社会を目指して頑張っている皆さんの力強さと熱意が伝わる報告であった。

3. 東京都しごと財団の篠田氏から、「ソーシャルファーム創設促進に向けた取り組み」をテーマにお話しいただいた。2019 年にすべての都民の就労を応援する条例として東京都ソーシャルファーム推進条例が制定され、その後の進捗状況と第一回目の認証ファームの公表など、取り組み内容の報告があった。

今回の Zoom 開催では、要約筆記を取り入れ、参加者の方々により分かりやすい情報を提供することができたと思う。

成果の広報・公表

コロナの影響が続く中、今回も Zoom 開催であったため、講演資料については会議中に参加者がダウンロードできるように設定し提供した。また、Facebook での開催状況の発信を行った。

資料について問い合わせがあった場合は都度対応を行っている。その他、第 1 回の北海道新得町での開催から滋賀、栃木、神奈川、大阪、鹿児島、東京を経て今回の福島開催まで、8 回のサミットの内容をまとめた報告集の作成を予定している。報告集 PDF はホームページやソーシャルファームジャパンの Facebook などで公表予定です。

今後の展開

ソーシャルファームジャパンは 2008 年の設立以来、ニート、引きこもり、障害者、刑務所出所者、難病患者など多様な雇用弱者のソーシャルインクルージョンを目的として活動を始めたが、その後障害者にたいする各制度が制定され就労支援の形態が変化している。

当初はソーシャルファーム概念の普及をめざし、都内で勉強会・総会、北海道や各地で勉強会を行ってきた。2013 年からは、全国普及活動と

して「ソーシャルファームジャパンサミット」を開催。

北海道、滋賀、栃木、神奈川、大阪、鹿児島と全国を縦断してきた。今年度は東北地域にスポットをあて、震災後 10 年を経た活動状況を紹介していただいた。

今後も社会的企業として良質な製品・サービスを提供し、市民が身近に感じられる「ソーシャルファーム」の拡大を目指し、ソーシャルファームジャパンサミットの開催を継続していく予定である。